

## 臨床検査部 初期研修プログラム

### 必ず習得するアウトカム

1. 超音波検査等の生理検査の基本が理解できる。
2. 細菌検査: グラム染色、培養培地の選択と集落観察、同定検査、薬剤感受性検査の結果の見方が理解できる。
3. 血液検査: 末梢血液像の異常、正常・異常骨髄像が判読できるようになる。また、骨髄像報告書が作成できる。
4. 輸血検査: 用手法を用いた輸血検査と適切な輸血療法を習得する。
5. 尿検査: 尿沈査所見が理解できる。

### 研修目的

診療の基本となる臨床検査の各分野における理解と技術の習得を目指す。すなわち、生理検査の基本についても学ぶとともに、骨髄像を含めた血液検査、輸血検査、微生物検査、尿検査を学び、一人でこの検査と報告が出来ることを目標とする。さらに Reversed Clinico-pathological Conference (RCPC)等を通じて、診療に必須な、主に検体系検査データの見方を習得する。

### 研修目標

#### ◇ 一般目標

今後各科で活躍する際の診療に必要な検査の基本を身につける。

#### ◇ 行動目標

1. 超音波検査: 循環器、腹部等の超音波検査の見学から開始し、可能であればその手技を学ぶ。
2. 細菌検査: グラム染色、培養培地の選択と集落観察、同定検査、薬剤感受性検査の結果の見方、質量分析器を用いた菌種の同定が出来る。
3. 血液検査: 末梢血液像、骨髄像の判定と報告ができる。
4. 輸血検査: 血液型検査、交差適合試験などの輸血検査が実施、理解できる。
5. 一般検査: 尿検査、関節液検査、体腔液検査、髄液検査が理解できる。
6. 生化学検査: Reversed Clinico-pathological Conference (RCPC)等を通じて生化学、免疫検査を中心とした検体系検査の意義と検査データの見方を学ぶ。

#### ◇ 研修期間中に経験可能な疾患・疾病、および手技

1. 生理検査(循環器、腹部超音波)見学(100例程度)
2. 微生物検査報告書作成の手順(50例程度)
3. 骨髄像報告書作成(10例程度)
4. 輸血検査(20例程度)
5. 一般検査(尿沈査、関節液検査、体腔液検査、髄液検査)の判定(100例程度)
6. Reversed Clinico-pathological Conference (RCPC)等を通じて生化学、免疫検査を中心とした検体系検査の意義と検査データの見方を学ぶ。

## 研修方略

LS	方法	該当 SBOs	対象	場所	媒体	人的資源	時間	学習時期
1	実技研修	1	研修医	生理検査室	実技	臨床検査技師	3時間	月～金午前(ときに午後)
2	実技研修	2	研修医	細菌検査室	実技	臨床検査技師	4時間	火、水、金午後
3	実技研修	3	研修医	検査部	実技	指導医 臨床検査技師	2時間	月曜午後、 または木曜午後
4	実技研修	4	研修医	検査部	実技	指導医 臨床検査技師	2時間	月曜午後
5	実技研修	5	研修医	検査部	実技	臨床検査技師	1時間	月曜午後、 または木曜午後
6	SGD	6	研修医	検査部	プリント	指導医	1時間	月曜午後 など

## 研修評価

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
1,2,3,4,5,6	形成的	態度・知識	指導医	研修中	観察記録
1,2,3,4,5,6	形成的	実技	指導医	研修終了時	報告書

## 週間予定表

	午前	午後	夕方
月	生理検査室	輸血検査室、または検査部(骨髄像・尿検査・RCPCによる検査データの読み方)	
火	生理検査室	細菌検査室、または生理検査室	
水	生理検査室	細菌検査室、または生理検査室	
木	生理検査室	生理検査室、または検査部(骨髄像・尿検査)	
金	生理検査室	細菌検査室、または生理検査室	

## 指導責任者および指導医

指導責任者:高橋伸一郎

指導医 (臨床検査専門医)

:高橋伸一郎

// (臨床検査専門医、輸血認定医、血液専門医):沖津庸子(輸血部)

// (超音波専門医):大原貴裕(兼務)

学生(4~6年生)や他科研修中研修医のカンファレンスの参加の可否

参加可 (若干名のみ)・参加不可

研修医発表会、学会発表に対する指導体制

指導医が協力して発表の指導を行う。

同時期に受け入れ可能研修医数(1クール:3ヶ月)

0-1名/1クール

1回の研修期間を1-1.5ヶ月程度と考えています。

(但し年度初めの新人技師トレーニング期間 [4月~6月] には受け入れを制限する場合があります。)